

# 働くことは生きること よりよく生きるためのワーク・ライフ・バランス

北海道高校教諭

## 1 はじめに

昨年来、日本の景気が上向きとなっていることや団塊の世代の大量退職が控えていることなどから、新規学卒者の求人が増加したり、契約社員やアルバイト・パートを正社員化したりする動きが産業界に広がっている。しかし、フリーターやニートの問題、労働条件の「格差」、そして長時間労働や過労など、働くことにかかわる課題が解決されたわけではない。

そこで、帝国書院『高校生の新現代社会（初訂版）』の「青年期の意義と自己実現」という単元において、p.56からの「職業と社会参加」という観点から授業展開を考えてみた。

## 2 青年期の課題と「一人前の大人」

まず授業の導入においては、前時までに学習した青年期の発達段階における特徴やその課題について復習しておく。アイデンティティ（自我同一性）の確立とその危機やモラトリアム（猶予期間）などという概念から、「一人前の大人」について生徒に考えさせることとする。

高度経済成長以前の農村社会における「一人前の大人」の基準は、男性は力仕事、女性は料理や裁縫などの家事で人並みの仕事ができることであった。しかし、工業化そして脱工業化した現代社会では、その基準は見えにくいものとなっている。

そこで、生徒に「『一人前の大人』の基準」や「早く大人になりたいか、なりたくないか」、そして「自分の『大人度』を5段階評価」について調査を行った。

私はここ20年あまり、今回紹介するような授業を行っているが、そこにおける「『一人前の大人』の基準」についての生徒の考え方は、大きく次の3つにまとめることができる。

### 「一人前の大人」の基準

- ①経済的自立  
自分で稼いで自分で食べていくことができる。
- ②精神的自律  
自分で自分自身をコントロールできる。
- ③法的な「成人」  
20歳。酒やたばこがOK。参政権が与えられる。罪を犯すと実名で報道される。

これまで私が勤務してきた高校においては、②の精神的な自律を大人の基準とする生徒が多かった。より広く意見を求めるのであれば、全国およそ500人の青少年の投稿による視聴者参加番組である「金曜かきこみTV」（NHK教育）<sup>1</sup>のHPが参考になる。番組のHPの掲示板には、現在の生徒たちの「生の声」が多数書きこまれている。

## 3 働くことの意義

しかし、社会一般の考え方としては、現在のところ①の「経済的自立」が「一人前」の基準となっているのではないかと思う。そして、その基準を満たすために必要なことが「働くこと」ということを、生徒に理解させるとよい。

それでは、働くことの意義とはどのようなことか。次のような英語の単語を辞書で調べさせる作業を通じて生徒に考えさせている。

### 「働くこと」についてのニュアンスの比較

calling

：天職、そのために生まれてきたような仕事

vocation

：収入目的ではなく、目的意識や使命感で選んだ職業

career

：生涯を通じての専門的職業

profession

：専門的な訓練と知識を要する職業

trade

<sup>1</sup>)2007年4月7日からは、「土曜かきこみTV」となり、放送は土曜日になっている。

：手や機械を使う技術を要する職業

occupation

：必ずしも雇用を意味しない恒常的な職業で改まった語

employment

：雇用を意味する職業、就職

business

：営利的な仕事、商売

job、work

：単純労働から熟練を要する職業までを含むくだけた語

\*参考『新グローバル英和辞典』（三省堂）

理想としては、calling のような天職を見つけ出すことだが、ほとんどの大人は「生活のための仕事」に従事する場合が多いのが現状である。

現代では、終身雇用、年功序列賃金の雇用システムにかわって、契約や派遣という雇用形態や職能給や能力給という賃金体系が取り入れられるようになった。そのなかで、少なくとも career や profession、あるいは trade に含まれるような専門的な技術や技能を身につけることが、「やりがい」や「職業的同一性」、そしてよりよく生きるという意味での「生きがい」をもった生き方に結びつくことを、生徒にも考えさせる機会としたい。

## 4 汝自身を知れ

それでは、「生きがい」に結びつく職業に就くためには何が必要なのだろうか。望ましい職業選択をするためには、自分と向き合い、自分なりの答えをもつことが必要である。しかし、自分のこと

はなかなかわかりにくいものである。そこで、自分をよく知っている親や先生、友だちにきいてみるというのも一つの方法だが、教科書p.52-53の自我同一性の心理テストを行ってみるのもよい。

また近年においては、インターンシップなどの職業体験なども、盛んに行われるようになっている。そのような機会に積極的に参加し、さまざまな体験や人々との出会いを通じて、自分自身の内面についての新しい発見を得ることができるかもしれない。教科書p.56-57の「現場から」にあるような、さまざまな仕事に従事する人たちの声を聞いてみるのも、生徒にとってはよい経験となる。

## 5 「100人の高校生」の進路

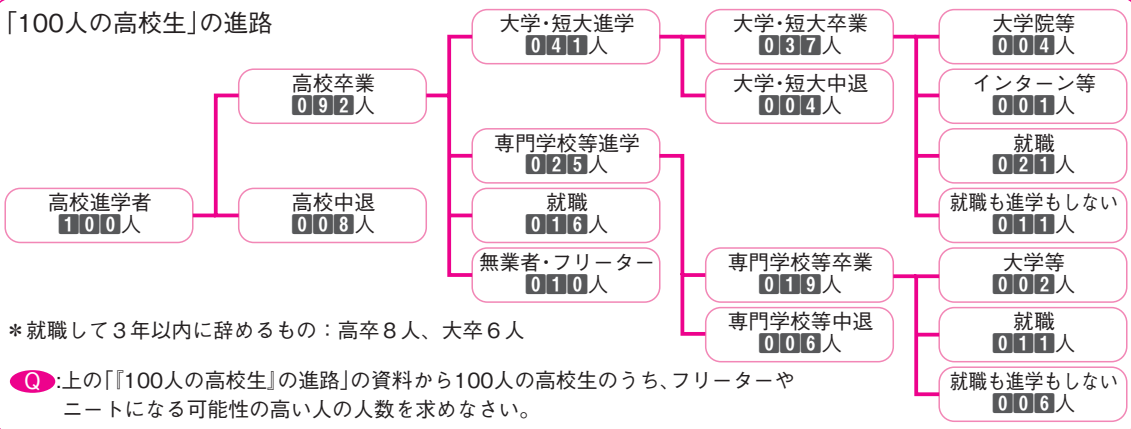
下の図は鹿嶋研之助・千葉商科大学助教授（当時）が平成16年3月に調査したデータを参考にまとめた「『100人の高校生』の進路」である。これを使い、高校生の進路と働くことの現状、そしてフリーターやニートの数的な実態を、生徒に捉えさせている。

学校、あるいは生徒の実態を考慮して可能であれば、同ように「〇〇高校100人の入学生の進路」というような資料をつくらせると、自らの生き方についてより強い意識づけができるのではないかと思う。

## 6 正規雇用と非正規、派遣・契約

冒頭に示したように、現代の産業界では雇用形態が多様化している。

「100人の高校生」の進路



「現代社会」の学習では、生徒の生活や経験などの具体的な事象から、学習の興味・関心を引き出すことが求められる。そこで、正社員と非正社員の違いを教科書p.80-81の「How to」や、できれば実際に学校に送られてきている求人票とアルバイトの求人情報誌やウェブサイトなどをもとに、給与やボーナス、労働時間や休日、そして年金や健康保険、福利厚生などの項目を指定して比較させるとよい。今号付録の「求人票ワークシート」も参考になる。



『高校生の新現代社会（初訂版）』p.80-81

また、非正社員のなかでも契約社員と派遣社員との違いを調べたり、その法的な位置づけや労働組合の状況について調べさせることも必要である。この学習にあわせ、経済分野における「労働者の権利と労働問題」の単元で取り扱うこともできるので、あらかじめ調整しておくとうい。

## 7 「したたかに」でも「しなやかに」生きる

昨年7月にNHKが「ワーキング・プア～働いても働いても豊かになれない」という番組を放送したのをきっかけに、フリーターやニートだけではなく「ワーキング・プア」と呼ばれる人々が急増していることが社会に衝撃を与えた。

ワーキング・プアとは、働いても働いても生活保護以下の水準、年収200万円以下しか得ることができない「働く貧困層」の人たちのことである。このような家庭が、日本全体に400万世帯もある

のだ。

日本国憲法第25条が保障する生存権、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を脅かす深刻な実態が、全世帯のおよそ10分の1に広がっている。そして、景気が回復しているといわれるなかで、ワーキング・プアの厳しい現実を映し出した番組に、多くの大きな反響が寄せられていた。

それは誰にでも起こり得る極めて身近な問題である。そのような現実の社会の問題を解決するためにも、自分を取り巻く環境や自分自身の内面に決して無関心になってはならない。「一人前の大人」として、そのような社会のあり方がよいのか、それともよくないのか、ということについて、自分の意思を投票行動を通じて社会に反映することも認識させたい。

一人の力は小さくても、多くの人間が社会参加をすることによって、よりよい社会を築くことができる。しかし、世の中は簡単には変わらないということもまた事実である。そのような社会のなかで「したたかに生きる」ためのスキルや態度を授けていくことも重要である。また、「したたかに生きる」だけでなく、「心のプア」になることだけは避けさせなければならない。そのための働きかけをすることも、我々の重要な責務であると考え

る。そこで、「よりよく生きる」ために仕事と生活のバランスをとり「しなやかに生きる」、ワーク・ライフ・バランス（WLB）という考え方をミハエル・エンデの時間をテーマとして扱った『モモ』という映像作品を通じて考えさせている。

ライフには「生活」という意味の他に、「命」とか「生き方」という意味もある。そして、生活とは「お金」、命とは「時間」を意味し、WLBとは「お金」と「時間」のバランスをとって中庸に生きることではないかということ、生徒の今後の生活のなかでも意識させたい。

〈参考文献・資料〉

斎藤耕二ほか『高校生の心理』有斐閣 1981

門倉貴史『ワーキングプア』宝島社 2006

ミハエル・エンデ／大島かおり(訳)『モモ』岩波書店 1976

映画「モモ」(105分) 提供：朝日新聞社＝ヘラルド 1986製作